

自然公園等事業の事後評価表

事業名：抱返り溪谷歩道整備事業

事務所名等：秋田県

事後評価年度：H24年度

事業概要	新規採択年度：H17年度		完成年度：H19年度		
	計画額：255,000千円		実行額：255,000千円		
	<p>事業目的：抱返り溪谷歩道は、県内陸部の田沢湖抱返り県立自然公園内に位置する長距離自然歩道「新奥の細道の“四季彩”抱返り溪谷のみち（コース20；延長15km）」であり、その優れた自然景観を求めて新緑と紅葉の時期を筆頭に多数の利用者が訪れている。しかし、溪谷自体が崩壊しやすい地質であり、融雪や降雨により落石や土砂流出、倒木などが発生しやすいため、危険箇所を整備し利用者の安全を図るものである。</p>				
	<p>事業場所：秋田県仙北市角館町広久内 地内</p> <p>構造・規模等：法面整備工A=412.3m²、ポンド目地工12,950L、ポンド注入工22,226L、詰石工21m³、橋梁工L=42.5m（以上H18） 法面工（落石防護策1,112m³、落石防護ネット140m²、植生マット102m³）、土留工（石積工63m²、木製土留工19m³）、防護柵工（木製丸太柵工1式）、橋梁補修工1式、塗装工1式、排水溝1式、トンネル工1式、展望台工1基、法面整備工A=286.5m²、ポンド目地工7,199L、ポンド注入工5,608L、詰石工7m³（以上H19）</p>				
評価結果対比		費用便益分析		指標活用型評価	備考
新規採択時評価		26.66		18	
事後評価		9.16		19	
事後評価の実施	視 点		内 容		
	実績の確認	費用対効果分析及び指標活用型評価要因の変化	利用者の減少により、費用便益費が減少した。指標活用型評価については、新規採択時より向上した。		
		事業効果の発現状況	歩道の整備により、利用者の安全性並びに利用環境の確保が図られた。		
		事業実施による来訪者や周辺環境の変化	公園全体の来訪者の減少に伴い、当該歩道への利用者数も減少した。		
		社会経済情勢等の変化	（特記事項なし）		
	必要性の検討	今後の事後評価の必要性	なし		
		改善措置の必要性	なし		
同種事業の計画・実施のあり方や事業評価手法の見直しの必要性		県内でも有数の溪谷美を誇る歩道であり、減少しているとはいえ相当数の来訪者がある利用施設であることから、引き続き安全性の確保に努めていく必要がある。			
<p>1 事後評価の結果：</p> <p>ア 効果の発現が十分で改善措置の必要性がない。</p> <p>イ 今後時間の経過とともに効果の発現が期待できるため、経過観察が必要である。</p> <p>ウ 効果の発現は期待できず改善措置の検討が必要である。</p> <p>2 上記1のウの場合の検討状況：</p>					